

## NPO パートナースhip協力プログラム 事業終了報告書

団体名 任意団体テンカラセン代表者名 高橋一美

1. 事業名  
人と人をつなげる熱海伊豆山復興プロジェクト
2. 事業カテゴリー  
復興
3. 事業期間  
2022年4月1日 ～ 2022年9月30日 (122日間)
4. 契約金額  
1,000,000円
5. 担当者名  
高橋一美
6. 事業目的  
熱海市伊豆山地区において、地域内外の住民交流や情報発信を行うことで災害の風化を防ぐとともに、被災経験を未来への教訓とし、住民同士が互いに学ぶ場づくりなどを通じた住みよい地域づくりを行う。

## 7. 事業の成果

<全体成果>

災害から1年が経過し、いまだ今後の地域の復興に向けた課題や不安はあるものの、地域住民も前向きな気持ちの方が増えてきた。そのため、より楽しく明るい気持ちになることができるよう地域内外の住民交流イベントなどを主に実施した。また同時に被災地域の住民間でも災害の風化がすすんだ。風化がすすむことで住民による情報発信が無くなり、熱海市外での風化がよりすすむことがないように、また未だ行方不明者が一人見つかっていない状況も考慮し、イベントの中では災害当時の話をする時間などをつくることで風化の防止に繋がった。

<地域住民の復興への姿勢の変化>

被災者同士が現状の胸の内を話し合う『今を話そう会』は1期事業に引き続き開催した。住民の心の声を傾聴し、悩み事等を聞くことで、今後の活動にどう活かせるかを考えながら活動を行った。当初はこちら側から困り事を聞かないと住民からは声がかからなかったが、会を継続したことで住民から部屋の電球に手が届かなく変えて欲しいなど小さい困り事などをテンカラセンへ発信してくれる事も増えてきた。発災当時に物資を運んだ住民宅にも時々ではあるがメンバーが顔を見に行くと、名前を覚えてくれており、家の電球を変えてくれないかと『あいぞめ珈琲店』へ来てくれる様にもなった。

また1期事業では話を住民から聞き取り、テンカラセンが主体となって活動を行ってきたが、2期事業実施期間では支援を受けるだけでなく、住民自身が外部と交流し、地域の復興に関して主体的に考え動く時期となった。そのため2期事業では聞き取りを継続しながら、住民が外へ出るきっかけになる様にイベントを行った。地域住民は高齢者が多く、日頃から身体の不調を訴える方が多く見られた為『背骨コンディショニング協会』の先生を呼び体操教室を開催した。聞き取りも一緒に行うことで住民の生活改善にも繋がった。岸谷地区では熱海市社協が運営する地域住民の憩いの場『いずさんっち』も開催されており、社協職員も住民には前向きになって欲しいと考えている。しかし相談にくる住民の人数が少なく、テンカラセンと一緒にコラボ活動などして行きたいという声も上がってきた。上記のことから住民が少しでも前向きになれる様な活動が出来てきているのではないかと、何かあるとテンカラセンへ言ってみようと思ってくれているのではないかと考えられる。

<地域住民と外部との交流促進>

住民と外部との交流が促進できるような仕組みの1つとしては、外から訪れた人に地域へのメッセージ

を木製コースターに記入してもらえ小屋を設置した。まだ利用者は多くないが、テンカラセンが運営するコミュニティカフェ「あいぞめ珈琲店」があるという事、災害があった事の風化防止などに繋げられる様に雰囲気作りを今後も進めていく。また団体が NPO 法人化したことで、外部支援も受けやすくなり社会的な信頼性も向上した。テンカラセン立ち上げ当初から支援を頂いている『駿河船団』主催のイベントなどにも呼ばれ、参加者と対談をする機会を設けて頂き、地域住民自身が当時の話をする事で風化防止と災害から学んだ事などを共有することが出来た。また、大学で防災を研究している教授と生徒が当時の活動と住民からの今の信頼をどう勝ち取ったかなど外部団体からのヒアリングを受ける事が多くなった。

## 8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

### (1) 任意団体テンカラセンから NPO 法人化

・任意団体として活動する中で社会的な信頼性などの問題があり、外部支援を受け難い場面があった。支援の受けやすさや、社会からの信頼性、外部へ支援に行く際にも NPO 法人の方が動きやすいことなどから法人化を申請し、無事受理された。その後、立ち上げ当初支援頂いた団体から 2 度目の支援を受ける事が出来たなど継続的な団体運営に繋がった。

・台風 15 号で被害を受けた静岡県清水区に支援に行った際にも NPO 法人と名乗る事で色々な方を紹介して頂き、地域同士の良いパイプ役になる事が出来た。

### (2) 今を話そう会を中心とした住民への聞き取りと交流イベント開催

#### ● 今を話そう会 1 回目

○ 7/3 被害者の会があいぞめ珈琲店を貸切利用

○ 団欒時間に一部のグループに向けて開催 参加人数 5 名 50 代女性達

■ 『戻れるなら 1 日でも早く戻りたい』

■ 『先が全く見えないが前を向かないと行けなくしんどくなる時もある』

■ 『元々知らない人も被害者の会を通じて知り合えたのでやっぱり人の繋がりは大事』

● 辛いと言う声もあったが前向きな気持ちでいると言うことは感じたので安心した

● これから少しでも前向きになれるイベントなどを考案できたらと感じた

#### ● 今を話そう会 2 回目

○ 8/19 一般社団法人ニューワールドアワーズスポーツ救命協会 代理理事の蝶野正洋さんと伊豆山消防団とあいぞめ珈琲店にて対談（参加者消防団 10 名、蝶野さんスタッフ 5 名、テンカラセン 3 名）

■ YouTube 動画撮影で被災地に来て地元の方と対談をするという企画のために、蝶野氏がテンカラセンと伊豆山消防団と対談を行った。「風化防止の為に観光はもちろん、熱海へ来た際には供養にも訪れてください」と動画内で発言してくれた。蝶野氏が来ている事を知った住民があいぞめ珈琲店へ集まりサインなどを頂いた。青春時代からのファンが多く勇気づけられたと住民も喜んだ。

■ 同時に「今を話そう会」も実施し、消防団にもヒアリングを行った。災害を思い出すと今は苦しくないが、これからの活動で少ない人数でまた災害が発生したらと考えると不安でしかないという声が多くあげられた。防災に関わるイベント等を開催し、防災に対しての住民の知識を向上させる事で消防団にだけ負担が行かないようにする必要があると実感し、今後の活動を考えるきっかけ・発見になった。

※伊豆山消防団との対談動画（代表の高橋が地域を案内）

<https://www.youtube.com/watch?v=8WJfHa6-TWQ>

#### ● 被災エリアの町内会長と熱海市社協とヒアリング会（2 回開催の内 1 回を「今を話そう会」として実施）

8/29,9/26 参加者共に 9 名 場所：「いずさんっち」

○ 参加者 テンカラセン、社協、未来創造部、町内会長（浜、仲道、岸谷）

未だに不安が続いている方もいるが少しずつ前向きな気持ちが聞くことが増えてきたので、引き続き地域住民が前向きになれるような取り組みを考えていく。

<浜・仲道・岸谷地区の町内会長からのヒアリング内容>

○ 町内会の活動や災害を経験し災害時に必要と感じた物などを共有。発災からこれまでの住民の声などを各々が発表した。岸谷地区住民は未だに雨が強いと予想される日は個人避難をしている方もいる。

○ 工事の進み具合や行政の対応に不満を持っている方が多数いる。

<社協からのヒアリング内容>

- 社協の『いずさんっち』は不定期に開催しているため、認知度が低く住民が覗きに来る回数も少ないが、熱海市内の八百屋に移動販売で来てもらったところ、好評で少しずつ住民が集まりつつある。
- 少しずつではあるが隣近所の方を心配する声も聞くようになってきた岸谷地区。一番被害を受けたので災害から学ぼうとしている姿は見習い、また発信していく必要があると感じた。
- 住民は伊豆山には昔はあったが今は娯楽がないので、今一番の希望は今までの生活を取り戻したいという声が圧倒的に多かった。ただこれからの若い人達の事を考えると元通りではなく進化しないといけないと言う高齢者の意見もある。

1 期事業では行政と直接意見交換をする場をもったが、2 期事業では行政側は市長選等で繁忙期であったこと、また被災現場の今後の工事など比較的、インフラ面に注力していた時期だった。テンカラセンが住民側からヒアリングした課題は住民交流や日常生活の困りごと、精神的なサポート面についてのもが多かったため、その分野で同じく住民サポートを行っている社協や町内会、地域団体との連携に努めた。1 期事業の際に行政との意見交換などを持ったことで、他団体からの認知度も向上した。より地域住民に近い立場の機関や団体と連携が取れるようになったことで日々の活動もよりスムーズに行うことができた。行政との直接的な連携に関しては、今後も状況を把握しながら検討をしていく。

- 9/19 富士市にてデコトラチーム駿河船団主催 復興イベントと対談
  - 駿河船団が富士市でデコトラチームが集まるイベント（参加者約300人）を開催し、一部の時間を使ってテンカラセンと伊豆山住民と駿河船団会長と対談を行った
  - 参加：テンカラセンメンバー3名、地域住民5名
    - 当時の行動と感じた事、今の行動と感ずる事を共有
      - 時間的に質問に対して答えるのみだったが、参加者が多く、災害の風化防止に繋がった。
      - イベントがあると未だに募金箱を設置してテンカラセンへ支援してくれているため、活動資金へ繋がっている。
      - メンバーの方は災害場所やテンカラセンで設置をしたバス停のベンチなど個人的に伊豆山に来て自分達のみで見に来てくれているので本当に応援してくれているんだと感じた。
      - 最後に『何かできることがあるかもしれないので何でも遠慮なく行って欲しい』と会長が言われ拍手して頂いた。一緒に行った住民は涙を流し『頑張ります』と発言し、ここに来てよかったと素直に感じた。
- 9/17 参加者 50名 体操教室とヒアリング（高齢者約30名、子供10名、大人10名で開催）
  - 背骨コンディショニング協会の方に来て頂き健康体操を浜会館にて開催。
    - 体操終了後、そのまま帰るのではなく参加者と一緒に災害発生時の事と今の環境に対して話す場を作った。
    - 参加者は伊豆山地区の住民や、伊豆山の隣の『泉地区』『熱海市内』『湯河原』の地区住民が参加。
    - 伊豆山以外の住民から「知り合いなどに聞きづらい事で詳しく知らなかったが『サイレンが聞こえない。高齢ですぐ動けない』などの声を聞き、近所で助け合いが大事と思った」などと話があり、参加者同士でコミュニケーションを取ることが出来た。
      - 「災害が発生して、体操に参加でき仲間が出来た」とテンカラセンメンバーの記憶に強くも残るような伊豆山住民の発言があった。
      - 「こういう付き合いは寝たきりになると参加が出来ないため定期的開催するなら参加したい」という声が多くでたため可能な方法を今後考える。
- メッセージコースター記入場所として小屋の設置
  - 伊豆山神社で昨年末に、木材のコースターに伊豆山へのメッセージを記入し LED ランプと一緒に設置し灯籠を灯すというイベントを開催。その際に木材のコースターが全枚数（300枚）全て記入された。これからもメッセージコースターの取り組みを継続するために、あいぞめ珈琲店にてメッセージコースターの記入ができる場所づくりを続けてきた。
  - より気軽に記入し、見ることができるよう、伊豆山神社前にメッセージコースター記入場所として小屋を設置し、伊豆山に来た方が誰でもコースターを記入できる場所をつくった。
  - 現在、災害時に土砂が流れた場所には人の手が加えられておらず、雑草が生い茂り災害があっ

たと説明されなければ誰も気付けない環境にある。訪れた人が誰かが書いたメッセージを見て感じ、気付く事で風化防止に繋げることができた。

- 強風によって、一度全壊したため、安全対策を行ったうえで再設置した。

#### ● テンカラセン新聞発行

- 伊豆山で今もなお活動している団体や行政や町内の活動内容をまとめた新聞を発行
  - 当初、新聞折込を主な配布手段として 9000 部程の発行を予定だったが、好評だったこと、また新聞を取っていない住民から欲しいという声が多数あり増刷した。
- あいぞめ珈琲店、伊豆山のお店、近くのマンションなどに設置をし、住民が個人的に老人ホームなどにも設置を呼びかけてくれた。
- あいぞめ珈琲店では観光客（40～50 代、大学生など）が持って帰る姿もあった。
- SNS 等での情報収集が出来ない高齢者からは、今もこんな活動をしてきている方がたくさんいる事に感謝の言葉をもらうことができた。発行部数 12,000 部

<内訳>

- みなし仮設 140 部
- 熱海市内新聞折込 9,000 部
- あいぞめ珈琲店 1260 部
- いずさんっち 100 部
- 浜地区町内 100 部
- 仲道地区町内 100 部
- 岸谷地区町内 100 部
- 熱海市内各店舗 1000 部
- 熱海消防団 200 部

#### 9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

- 1期事業は地域交流に関して今を話そう会のみだったが、2期事業は違うイベントと一緒にやる事で参加しやすいや外へ出るきっかけを作る事やヒアリングも出来た。住民の気持ちも前向きになってきているため、イベントの満足度も高かった。
- 住民に現状の困りごとや課題などを聞き取り、テンカラセンが外へ情報発信するだけでなく、地域住民の話を通じて、大勢の方に聞いてもらえる機会があったことで外部の方々へ一番正確に地域住民の思いが届けられる事が出来た。
- NPO 法人化ができ、支援を受けやすくなり、今後も継続的に活動が期待できる。
- 自分達ができる事は多くはないが、普段の何気ない話をしたり日常を取り戻せる様にすることが住民にとっては重要だと改めて発見が出来た。
- イベントなどの話を事前に聞いていないと不満を言う住民がいたため、情報発信が今後の課題である。

#### 10. 協力体制の構築

- 熱海市社会福祉協議会→地域や他団体やチームなど活動共有をする場を作れたので今後も引き続き行っていく。
- デコトラ駿河船団→イベント開催と対談、情報発信の場の提供
- OBJ (オペレーションブッシング・ジャパン) →子供のイベントなどの時にキッズクラブと共同活動
- 背骨コンディショニング協会→健康体操教室の実施
- 消防団、行政、社協、港などと新聞発行の際に記事投稿を依頼したことによる相互協力の関係性づくりが出来た。

#### 11. Civic Force との協働について

- ・テンカラセンという団体を作ることができ、また NPO 法人にまでなることが出来た。
- ・本事業を通して、住民と関わる活動が出来ており、災害から関係性が深まった。
- ・オフラインでも一度あいぞめ珈琲店にきて頂き、HP などでも発信して頂いた。テンカラセンという団体が熱海市伊豆山で活動しているということの告知ができた。
- ・何かあるとオンラインや電話ですぐサポートして頂き大変助かった。もし可能であれば契約が終了しても分からない事が聞けたらと思う。